



TITLE:

# 降星傳説の史蹟を探ねて : 第5回合同ハイキング

AUTHOR(S):

西森

---

CITATION:

西森. 降星傳説の史蹟を探ねて : 第5回合同ハイキング. 天界 1937, 17(197): 428-428

ISSUE DATE:

1937-08-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167530>

RIGHT:

## 降星傳説の史蹟を探ねて——(第5回合同ハイキング)

西 森 生

協會5月の例會は16日(日)に星田村の降星傳説の史蹟を探ねての本部・京阪兩支部合同ハイキングとして催された。早朝の今にも降り出しそうな雲行も降る氣配も薄らいだので、京都・大阪からの兩組は枚方東口に落ち合つて私市に下車し、愈々星田村へと第一歩を踏み出す、星田村には降星山光林寺と稱ふる堂宇の境内の一隅に星御前と呼ぶ塚がある。此處より星ヶ森へと向ふ。畑中の杉木立を村人は星ヶ森と呼び、此の2點と正三角形を爲す所に星田妙見があり、各邊の長サが8町ある處より俗に「八町三所」と稱えられて居り、星田妙見の本尊は天降石で八町三所に北斗七星が墮ちたと傳えられて居るので、是は弘仁年間に弘法大師が此の地にて北斗七星を影向されたので、河内觀心寺の七星塚と同一系統の降星傳説として津久井氏が「銀河」第8號に詳細に紹介されて居る。

妙見さんの社務所に憩を乞ひ、一同は眺望より座敷に打寛ぎ携行の辨當の紐を解く、早や満腹となるや急に元氣恢復したものか話が賑やかになり、取り分け遊星面課の重鎮伊達・渡邊兩氏の火星の話は堂々一同傾聽する。此處で自己紹介が始められて京都からは田中(益)・宇野・西村(繁)・高井・渡邊の諸氏、大阪からは津久井・北條・田村・西森・伊達の諸氏で思はず2時間程話し込む。

是より磐船神社にと急ぐ、懸念された天候も降らず照らずで西風が涼しく、新緑は鮮やか鶯の啼聲も朗らか、此の邊りはいろいろの岩石が山膚に裸出し、或は風化して砂となり、或は巨岩重疊して洞窟あり、石材切出し工事場あり地質學的に見る時は亦興味深いと思はれる。月ノ輪瀧・奇景月ノ岩も天文史蹟?として見物、頂上の眺望・谷間の溪流、是より獅子窟寺・源氏ノ瀧が殘餘のコースながら歸路を急ぐ爲他日に割愛して私市に出で、枚方東口迄運ばれて此處で京都組と大阪組は東西に別れを惜しみつつ歸途に就く。

秋の合同ハイキングは史蹟に有名な笠置山に約束された。愉快な一日の行樂合同ハイキングの面白味は參加された方でないと味えませんから、未だ參加されない方々は次回から多勢にて御參加して下さい。(5月16日)